

響

一ひびき一

全道庁労連 4,000 人の女性組合員の総力ですべての合理化に反対し、健康でいきいきと働き続けられる職場をつくろう。女性の社会的、経済的、政治的地位の向上をめざし真の男女平等を確立しよう。

健康で働き続けるために

私たちの切実な思いを受け止めよ！

～独自要求闘争の重点課題で交渉実施～

1月8日、本部女性部、青年部合同で、各課長(主幹代理対応) 交渉を実施しました。女性部は「男女平等職場確立」「次世代育成支援対策」「福利厚生・健康管理」「臨時・非常勤職員関係」など7項目を重点課題として、職場発言を交えながら当局を追求しました。

1月8日、本部女性部、青年部合同で、各課長(主幹代理対応) 交渉を実施しました。女性部は「男女平等職場確立」「次世代育成支援対策」「福利厚生・健康管理」「臨時・非常勤職員関係」など7項目を重点課題として、職場発言を交えながら当局を追求しました。

【女性部重点課題】

- ◆賃金関係
- ◆基本賃金の独自削減停止
- ◆福利厚生・健康管理
- ◆婦人科検診の受診率向上
- ◆男女平等職場の確立
- ◆女性職員の登用拡大
- ◆数値目標を含むポジティブ・アクションの策定
- ◆次世代育成支援対策等
- ◆「北海道特定事業主行動計画」の管理職への周知、着実な推進
- ◆専門職種の代替確保
- ◆子の看護休暇の拡大
- ◆不妊治療に係る休暇新設
- ◆臨時・非常勤職員関係
- ◆休暇等処遇の改善

※交渉の詳細内容は、労連情報第47号を参照ください

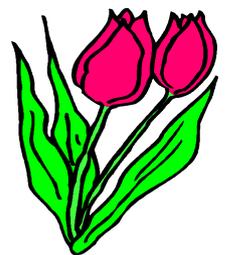
職場実態発言

★婦人科検診

職場の仲間、母親を乳がんで亡くした人がおり、遺伝性乳がんの不安から、検診対象年齢前から専門の医療機関で毎年乳がん検診を行っていた。検診対象年齢になったが、毎年受診していた医療機関が対象機関になっておらず、やむを得ず自費で受診している。経過を含めて判断することができず精神的な負担も減らすことができる、実施医療機関以外での受診を可能にしたい。また、遠隔地の職場に勤務している職員は受診するにだけ1日を要してしまうため、受診しづらいという声もある、受診しやすい環境づくりのために医療機関の拡大を求める。

★休暇取得しやすい職場環境

職場環境



時間外勤務が恒常化している職場、特に専門職を中心に欠員が多くなっている職場では、なかなか年休の取得も難しく、そのような職場では当然育児などの休暇も取りづらい。さらに育児や介護に無理な管理職員もおり、なおさら休暇が取りづらくなっている。女性部のアンケートによると、管理職員の資質向上を望む声が多く見られる。現場の管理職に任せるだけでなく、人事課として、人員配置で時間外勤務のない職場にすることはもちろん、職場のキーパーソンとなる管理職に、意識を変革するような研修や指導の実施、特定事業主行動計画の「趣旨」や女性も働き続けることの「重要性」を周知徹底するなど、休暇を取りやすい職場環境に向けての努力を希望する。

※1～4月は『よくら月間』です※

あなたの職場は、自分が自分らしく働ける職場ですか？「自分らしく」の定義は人それぞれだと思いますが、自分の能力を生かして生き生きと働いているでしょうか？

女性部では、1月から4月までを「よくら月間」とし、女性の働きやすい職場づくりや、女性の権利確立等について聞き取りやアンケートの実施など取り組みを実施します。私たちにあなたが抱えている思いや悩みを聞かせてください。解決に向けて、ともに行動を起こしてください。

また、仲間たちの声や思いをとりまとめ、問題を全体で共有するためにも、今年も女性組合員へのアンケートを実施しますので、そちらにもご協力をお願いします



婦人科検診受診しましたか？

北海道では、20歳以上(乳がんは、40歳以上)の女性職員に対し、2年に1度婦人科検診を受けられる制度を設けています。婦人科の病気の多くは自覚症状にとぼしく、婦人科とは無関係に思える症状でも何らかの形で病気がつながつているケースもあります。ですから、症状がない場合でも定期的に検診を受けて、早期発見し早期治療することが大変重要です。

■子宮がん
そこで、婦人科検診に組み込まれる子宮がん、乳がんの特徴や検診の必要性について取り上げました。

道が実施している検診は、子宮の入り口にできるタイプのがん、「子宮頸がん」の検診です。このがんはウイルスで、性交渉の経験がある女性の10〜30%はすでにウイルスを保有しており、その一部が、がん化する可能性を持っています。



がん初期にはほとんど症状がないので、早期発見するには検診を受けることが必要です。婦人科の受診は抵抗があるかもしれませんが、早期の段階で発見できれば、子宮を残した治療が可能で、ほぼ完治します。

■乳がん
母乳を作るための分泌腺が集まってできた乳腺組織にできるがんです。日本人女性に起こるがんの中で最も多く、30人に1人に起こるといわれています。患者数は年々増加傾向にあり、罹患の割合としては、30代後半から急激に増え、40代後半にピークを迎えます。



他のがんと比べて治りやすいがんではありませんが、患者の3割が再発(転移)し、年間で約1万人が亡くなっており、壮年期(30〜64歳)の女性の死因原因のトップになっています。

早期に治療した場合、9割近くの方が、ほぼ治癒するというデータが示されています。

※乳がんや子宮がんは女性なら誰もがなりうる病気です。発見が早いほど、治療の選択の幅がひろがり、その後の生活や生き方にも影響します。

来年度の検診については、4月以降、各職場で周知がされる予定です。自分の身体を大切に考えて、2年に1回の機会を逃さずに検診を受けましょう。

女性部三役からのごあいさつ

☆女性部長になりました十勝総支部 佐藤麻美です。今まで働きつづけることができたのは、女性部のおかげです。女性部が結成されてから26年、その間行ってきた運動の継承について、今後1年間検討します。女性部がなくなっても今までの取組が継続できるよう1年間がんばりますので、よろしくお願いいたします。

☆この度副部長になりました空知総支部 川原直子です。8年前にも副部長、事務局長をさせていただき、その後も本部常任幹事の代理で幹事会、女性集会等に出席していたので見たことのある方いらっしゃると思います。大会の挨拶でも述べましたが、私の組合活動の原点は女性部です。佐藤部長・岡事務局長と協力して女性部の発展的解消に向けて頑張りますのでよろしくお願いいたします。

☆事務局長の松山総支部 岡めぐみ です。

もう1年、事務局長をやらせてもらうことになりました。女性部の発展的解消にむけ最後の1年精一杯頑張ります！

1年間よろしくお願いいたします。

お知らせ

道本部女性部主催

① 女性交流集会

と き:2014年2月1日(土)

と ころ:札幌市

内 容:「講演・分散会」

② 女性政治学習会

と き:2014年2月2日(日)

と ころ:札幌市

内 容:講演「未定」

講師:調整中

☑詳細については、後日お知らせします。

